

能

追加

千

平重衡 観世三郎太
千手前 観世清和

手

宗茂 飯富雅介
後見 上田公威
山階彌右衛門

大鼓 河村眞之介
小鼓 久田舜一郎
笛 鹿取希世
久田勘吉郎
坂井音隆
本田 勲
井上裕久
松山幸親
武田宗和
山中雅志
坂口貴信
(四時半頃終了予定)

狂言

舞囃子

藤戸

久田勘鸞

泣尼

井上松次郎

地謡 伊藤裕貴
吉沢 旭
山階彌右衛門
祖父江修一
壺 鹿島俊裕
尼 佐藤友彦
大鼓 河村総一郎
小鼓 船戸昭弘
笛 竹市 学
坂井音隆

舞囃子

歌

鶉女松経

太郎

正 風 花 飼

天羽敦海

盛 衣 鼓

江

口

今沢美和
近藤幸江
本田 勲
星野路子
村井邦子
瀬戸洋子
久田三津子
伊藤裕貴
松山幸親
山中雅志
吉沢 旭
祖父江修一
大鼓 河村総一郎
小鼓 船戸昭弘
笛 竹市 学
坂口貴信
伊藤裕貴
吉沢 旭
上田公威
山階彌右衛門
武田宗和
野実 盛 宮
井上裕之真
坂口貴信
関根祥丸
尼 佐藤友彦
壺 鹿島俊裕
大鼓 河村総一郎
小鼓 船戸昭弘
笛 竹市 学
坂井音隆

森組

連吟

仕舞

仕舞

◆千手(せんじゆ)

【あらすじ】平重衡は、清盛の五男で、
「谷合戦では、大手(正面)の陣と
なつた生田ノ森方面の副将だったが、
戦に敗れ、捕われて鎌倉に護送され
ます。鎌倉では狩野介宗茂に預け
られ、幽囚の身で世の無常を嘆いて
います。源頼朝は、この若くりし
い平家の公達に、少なからず同情を
寄せ、自分の侍女で、手越(てこ)宿の長
者の娘である千手ノ前をつかわし、
後いくばくもない命のつれづれを
慰めます。ある春の雨の降る夜、宗
茂は重衡に酒を勧めようとやつて
来ます。そこへ、千手も琴琵琶を
もつて訪れます。重衡は先日、千手
を通じて頼朝に願ひ出てあつた出
家の望みがかなわぬことを告げら
れ、これもまた、父清盛の命令とは
いながら、南都奈良の仏寺を焼
いた罪業の報いかと嘆きます。千手
は重衡の心中を思いやり、酒の酌を
し、朗詠をうたい、舞をまつて、心を
ひきたせようとしています。重衡も
興のつて、琵琶を弾くと、千手も
琴を合わせ、夜の更けるまで、つか
の間の小宴を楽しみますが、翌朝、
重衡は勅命によつて、また都へ送り
帰されることになり、鎌倉を出立
します。千手は、その後姿を涙なが
らに見送るのです。

主催名古屋観世会

【共催】公益財団法人 能楽財団